SankenKenpo
サンケン電気健康保険組合
2023 春

令和５年度

予算のお知らせ

当健康保険組合の「令和５年度予算」が、去る２月22日に開催されました第153回組合会において承認され、決定いたしました。

令和５年度は、前年度からの団塊世代の後期高齢者への移行が進む中、健保組合が拠出する後期高齢者医療への支援金が急増しており、医療費についても、受診状況がコロナ禍前の水準に戻っていることから、保険給付費の増加を見込みました。

一般勘定の保険料率は調整保険料率に変更がないため、9.9%を据え置きとなりましたが、介護保険料率については介護勘定更生のため、2.15%から1.95%に引き下げて、事業運営に当たることにいたします。

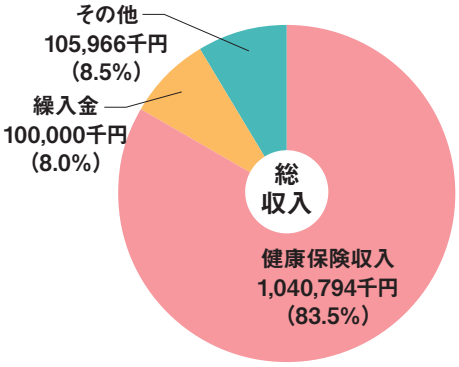
依然として健保財政の厳しい状況が続く中、政府では、全世代で社会保障を支える姿勢を打ち出したり、保険者間の保険料率の格差を是正する仕組み導入の具体的な取り組みを示しています。

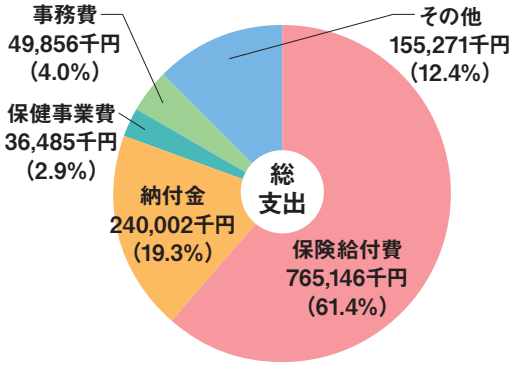
当健保組合では、保健事業の積極的推進で、皆さまの健康維持・増進に取り組んでまいります。

皆さまにおかれましては、当健保組合の保健事業を活用して健康管理に取り組んでいただくほか、ジェネリック医薬品の利用などを通して、医療費削減にご協力いただきますようお願いいたします。

一般勘定

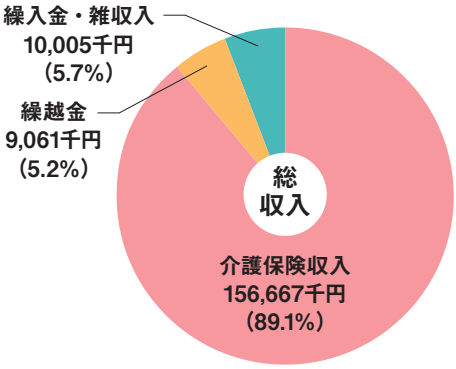
予算総額は1,246,760千円となり、経常収支では51,012千円の赤字を計上しました。

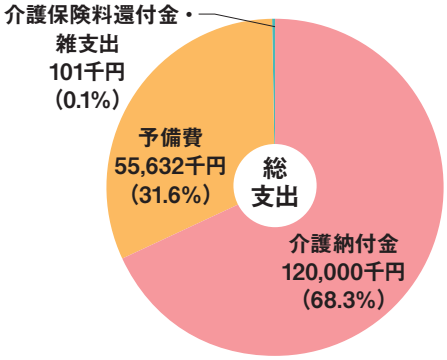




介護勘定

予算総額は175,733千円となりました。





サンケン健保加入事業所が「健康経営優良法人2023」を取得しました！

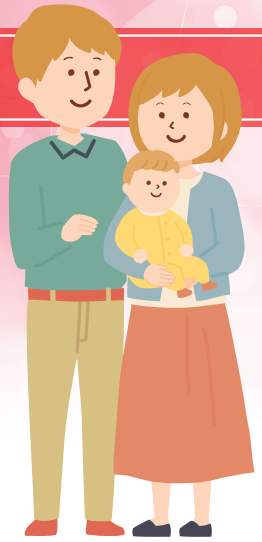
大規模法人部門　　サンケン電気株式会社

中小規模法人部門　山形サンケン株式会社・福島サンケン株式会社

（関係会社トピックス：石川サンケン株式会社も健康経営優良法人2023中小規模法人部門を取得しました）

令和５年４月１日から

出産育児一時金が引き上げられます



被保険者や被扶養者が出産したときに
健康保険組合から支給される出産育児一時金の額が、
令和５年４月１日から50万円に引き上げられます。

? 出産育児一時金とは

正常な妊娠・出産は病気ではないため、保険診療が適用されません。しかし、全額を自分で払うのは大きな負担となることから、健康保険では「出産育児一時金」の制度を設け、被保険者または被扶養者が出産したときに、出産にかかる費用の補助を行っています。万一、流産・死産の場合でも、妊娠４ヵ月（85日）以後ならば、支給対象となります。

出産にかかる費用は年々上昇を続けており、この負担増を軽減する観点から、このたび、出産育児一時金の支給額が引き上げられることになりました。

出産育児一時金の支給額は、令和５年３月３１日までは１児につき42万円（産科医療補償制度に未加入の医療機関等で出産した場合は40.8万円）です。これが、令和5年4月1日以降の出産から、全国一律で、１児につき50万円（同48.8万円）に引き上げられます。

出産育児一時金の引き上げ

令和５年３月31日までの出産

１児につき **42万円**

（産科医療補償制度の対象外の医療機関等で出産した場合は40.8万円）

▶

令和５年４月１日以降の出産

１児につき **50万円**

（産科医療補償制度の対象外の医療機関等で出産した場合は48.8万円）

出産育児一時金の受け取り手続き

「直接支払制度」を利用するとき

（出産費用を健保組合から直接医療機関等に支払うことで窓口負担を軽くしたいとき）

退院までの間に、医療機関等と直接支払制度の利用について書面で取り交わしをします。

後から受け取るとき

直接支払制度を利用しない場合は、出産後に医師などの証明を受けて、「出産育児一時金支給申請書」を健保組合に提出します。

当健保組合では、これに加えて1児につき「出産育児一時金付加金」15,000円、「家族出産育児一時金付加金」15,000円が受けられます。

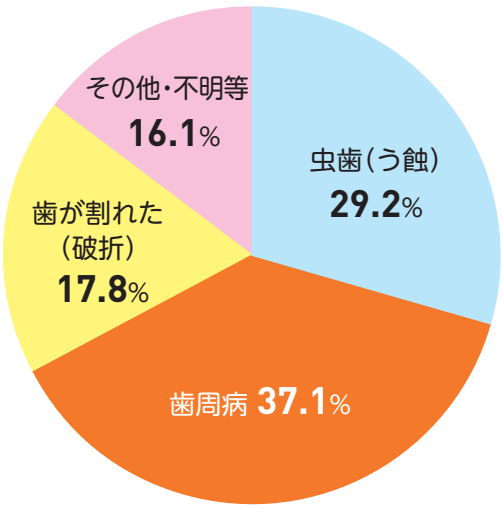
歯科健診で
歯と歯茎の健康チェック！

歯医者さんは歯が痛くなったら行く場所と考えていませんか。
大事な歯を失わないために歯科健診を受けて歯を守りましょう。

虫歯や歯周病など、歯と歯茎の病気は自然には治りませんので、異常はできるだけ早期発見・治療が大事です。早期治療の方が痛みも少なく治療も短期間で済みますから、症状がなくても定期的に歯科健診で歯と歯茎の健康をチェックしましょう。もちろん、痛みや違和感など気になる症状がある場合は、放置しないで歯科医院を受診して相談しましょう。

歯の健康を守り自分の歯を失わないようにすれば、高齢になっても自分の歯で食事を楽しむことができ、健康寿命を延ばすことにつながります。

抜歯の主原因別割合



（公益財団法人8020推進財団「第２回 永久歯の抜歯原因調査報告書」を基に作成）

40歳以上は歯周病に要注意！

40歳以上になると歯周病で歯を失うことが特に多くなります。また、歯周病は歯を失うだけでなく、歯周病菌の出す毒素の影響が全身に及び、糖尿病、脳卒中、心臓病、肺炎、骨粗しょう症、がんなどさまざまな病気の要因になります。

歯を守るためのポイント

①毎日丁寧にブラッシング
歯磨きを丁寧に行うことで口の中を清潔に保ちます。

②歯間ブラシとデンタルフロスも活用
歯と歯の間など歯ブラシが届きにくい部分も清潔に。

③歯科健診で歯と歯茎の健康チェック
定期的に歯科健診を受けて異常を早期発見！

④できるだけ早く禁煙に取り組む
タバコは歯周病を悪化させ歯を失う原因になります。

国民皆歯科健診の導入が検討されています

2022年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2022」（骨太の方針2022）において、生涯を通じた切れ目のない歯科健診として「国民皆歯科健診」を検討することが盛り込まれました。歯周病など口の中の状態が全身の健康に影響することから、歯科健診により健康寿命を伸ばし、医療費を削減することが期待できます。具体的な仕組みや健診の方法などについては、議論が進められています。